

日経認知症シンポジウム2021

NIKKEI Dementia Symposium 2021

「認知症基本法案」成立に向け、マルチステークホルダーの連携を促進する



日時 2021年**10月20**日(水)9:00-15:50

主催 日本経済新聞社

共催 日本医療政策機構 (HGPI)

後援 厚生労働省 経済産業省 内閣府 認知症の人と家族の会
認知症未来共創ハブ

協賛



森永乳業

 **EXAWIZARDS**

PROGRAM

※プログラム、講演内容は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

9:00-9:40

オープニングセッション 1

●パネリスト

「COVID-19×認知症—私たちの社会が抱える変化と課題—」



繁田 雅弘氏 東京慈恵会医科大学精神医学講座教授(首都大学東京(現東京都立大学)名誉教授)

1983年に東京慈恵会医科大学を卒業、92年より95年までスウェーデン・カロリンスカ研究所客員研究員、2003年より東京都立保健科学大学 教授、05年より首都大学東京(現東京都立大学)健康福祉学部 学部長、11年より

首都大学東京(現東京都立大学)副学長、17年より東京慈恵会医科大学 精神医学講座 教授、首都大学東京(現東京都立大学)名誉教授。社会的活動として、日本認知症ケア学会 理事長、老年精神医学会 理事、東京

都認知症対策推進会議 副議長。著書は『認知症の精神療法 アルツハイマー型認知症の人との対話』(ハウス出版 20年)、『気持ちが楽になる認知症の家族との暮らし方』(池田書店 18年)など。



武藤 香織氏 東京大学医科学研究所 公共政策研究分野 教授

1998年東京大学医学系研究科国際保健学専攻博士課程単位取得満期退学。博士(保健学)。医療科学研究所研究員、米国ブラウン大学研究員、信州大学医学部保健学科講師を経て、

2007年より東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター公共政策研究分野准教授。13年より現職。専門は医療社会学、研究倫理・医療倫理。大規模認知症コホート研究(JPSC-AD)

やムーンショット認知症克服プロジェクトにも協力している。著書に『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』(共編著・東京大学出版会)など。



北中 淳子氏 慶應義塾大学文学部教授

専門は医療人類学。シカゴ大学社会科学MA、マギル大学人類学部・医療社会研究学部Ph.D。主著のDepression in Japan (Princeton UP, 2012; 仏語版 2014、『うつ病の医療人類学』日本評論社 2014)は、米国人類学会フランス・シュール賞など国内外5つ受賞。うつ病や認知症

を通じたライフサイクルの精神医療化と、予防医学、地域精神医療について研究を進めている。最近の論文などは以下: The social in psychiatries: depression in Myanmar, China, and Japan. Kitanaka, J, Ecks, S. & Wu, H. Lancet, 28 May 2021, 「3章 病態心理社会モデル」『講座 精神

疾患の臨床』気分症群』(中山書店, 2020), 「新健康主義: 日本での認知症予防論争をめぐる」『現代思想(特集:高齢者倫理)』47(12)2019年「共感の技としての精神医療—医療人類学的視点」『精神神経学雑誌』123(9): 576-582, 2021

●モデレーター



乗竹 亮治氏 日本医療政策機構 理事・事務局長/CEO

日本医療政策機構設立初期に参画。患者アドボカシー団体の国際連携支援プロジェクトや、震災復興支援プロジェクトなどをリード。その後、国際NGOにて、アジア太平洋地域で、官民連携による被災地支援や健康増進プロジェクトに従事。また、米海軍による医療

人道支援プログラムをはじめ、軍民連携プログラムにも多く従事。WHO(世界保健機関)' Expert Consultation on Impact Assessment as a tool for Multisectoral Action on Health' ワーキンググループメンバー(2012年)。政策研究大学院大学客員研究員(16-20

年)。東京都「超高齢社会における東京のあり方懇談会」委員(18年)。慶應義塾大学総合政策学部卒業、オランダ・アムステルダム大学医療人類学修士。米国医療支援NGO Project HOPE プロボノ・コンサルタント。

9:40-10:30

オープニングセッション 2

●パネリスト

「自治体に取り組む認知症施策のこれから」



大村 秀章氏 愛知県知事

1960年愛知県出身。82年東京大学法学部卒業。同年、農林水産省入省。96年に衆議院議員に初当選(当時36歳)。以降2011年まで5期にわたり衆議院議員を務め、この間、経済産業

大臣政務官、内閣府大臣政務官、内閣府副大臣、厚生労働副大臣、衆議院決算行政監視委員長などを歴任。11年2月、愛知県知事に就任(現在3期目)。「日本一元気な愛知」、子ど

も・若者・女性・高齢者・障害のある方など「すべての人が輝く愛知」、そして、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」の実現を目指し、県政運営に取り組んでいる。



保坂 展人氏 東京都世田谷区長

宮城県仙台市生まれ。教育問題などを中心にジャーナリストとして活躍し、1996年から2009年まで衆議院議員を3期11年務める。11年4月より世田

谷区長(現在3期目)。「参加と協働」を合言葉に住民参加のまちづくりを進め、子どもや若者支援に精力的に取り組む。

著書「子どもの学び大革命」(ほんの木)、「NO!で政治は変えられない—せたがやYES!で区政を変えた8年の軌跡—」(ロッキング・オン)など。



橋川 渉氏 滋賀県草津市長

1973年京都大学文学部卒業後、草津市入庁。企画部長、政策推進部長などを歴任し、2008年に草津市長に就任。現在4期目。20年6月に、滋賀県で初となる「草津市認知症高齢者など個人賠償責任保険」を導入。同年7月に、

同じく県内初となる「草津市認知症があっても安心なまちづくり条例」を制定。認知症の人の意思や、その家族の思いが尊重され、認知症の人を含むすべての人が、住み慣れた地域で、地域の一員として、安心して暮らし続けることがで

きるまちづくりを目指し、誰もが認知症を「我が事」として受け止め、市民、事業者、地域組織および関係機関と連携・協働して、認知症の人およびその家族を支える取組を進めている。

●モデレーター



栗田 駿一郎氏 日本医療政策機構 マネージャー

早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業後、東京海上日動火災保険を経て、2016年より日本医療政策機構(HGPI)に参画。18年に早稲田大学大学院政治学研究科修了。HGPIで

は主に認知症政策プロジェクトのほか、メンタルヘルス政策プロジェクト、子どもの健康プロジェクトなどを担当している。これまでに自治体、各種団体における認知症施策の検討の場に委員として複

数関わる。その他、大学・大学院での非常勤講師や各種学会などにおける講演、その他外部での公共政策・医療政策に関する講演・講義・寄稿なども行っている。

10:30-11:00

基調講演

「介護DX～AIを用いた社会課題解決を通じて、 幸せな社会を実現する構造とは?!～」



石山 洸氏 エクサウィザーズ 代表取締役社長

東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻修士課程修了。2006年4月、リクルートホールディングスに入社。同社のデジタル化を推進した後、新規事業提案制度での提案を契機に新会社を設立。事業

を3年で成長フェーズにのせ売却した経験を経て、14年4月、メディアテクノロジーラボ所長に就任。15年4月、リクルートのAI研究所であるRecruit Institute of Technologyを設立し、初代所長に就任。17年3月、デジタ

ルセンセーション取締役COOに就任。17年10月の合併を機に、現職就任。東京大学未来ビジョン研究センター客員准教授。

11:00-12:00

パネルディスカッション 1

「認知症バリアフリーシティーの実現に向けて」

●パネリスト



小山 遊子氏 イトヨーカ堂 経営企画室 CSR・SDGs 推進部 総括マネージャー

1994年中央大学経済学部国際経済学科卒業、同年イトヨーカ堂入社。店舗勤務を経て本部商品部マーチャンダイザーを務めた後、2017年より現職。社内のSDGs推進からリスクマネジメント、情報管理に至るまで、幅広くCSR活動を推進している。



菱谷 文彦氏 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 認知症総合戦略企画官

2000年厚生労働省入省。以来、衛生行政、児童福祉行政などを担当したほか、経済産業省、内閣府に出身経験有。11年 厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室室長補佐。12年 愛媛県経済労働部労働雇用課長。14

年 厚生労働省職業安定局派遣・有期労働対策部企画課長補佐。15年 医薬・生活衛生局総務課長補佐。16年 大阪府福祉部介護支援課長。18年 厚生労働省人材開発統括官付訓練企画室長。19年 厚生労働省政策統括官(統

計・情報政策、政策評価担当)付統計・情報総務室企画官。20年 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策本部。20年夏 厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課認知症総合戦略企画官。

栗田 駿一郎氏



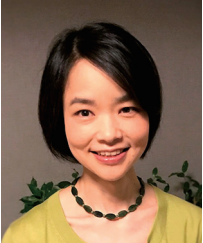
さとう みき氏 DAYS BLG! はちおうじ スタッフ・おれんじドアはちおうじ 代表

東京都在住。短大を卒業後、大学病院・大手メーカーで秘書として働いた後、結婚出産。子育て中に体調を崩し、少しずつ回復の兆しが見え始めた矢先の2019年1月に若年性アルツハイマー型認知症と診断をされた。現在は生まれ

育った東京都八王子市にあるデイサービス「DAYS BLG! はちおうじ」にてスタッフとして活動。今年3月からは仙台の「おれんじドア」のれん分け、「おれんじドアはちおうじ」として認知症と診断を受けたわたしが行政、八王子市の

みなさんとひとつになりピアサポート(認知症診断前後の不安を持ったご本人、ご家族の相談窓口)を毎月第三土曜日に開催。空港のユニバーサルデザイン委員会への参加や講演会などの情報発信活動を行っている。

●モデレーター



堀田 聡子氏 慶應義塾大学大学院教授・日本医療政策機構理事・認知症未来共創ハブリーダー

京都大学法学部卒業後、東京大学社会科学研究所特任准教授、オランダ・ユトレヒト大学訪問教授などを経て2017年4月より現職。博士(国際公

共政策)。社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会(厚生労働省)などの委員を歴任。より人間的で持続可能なケアと地域づくりに向けた

移行の支援および加速に取り組むかわら、中学生の頃より、主に障害者の自立生活の介助を継続。訪問介護員2級/メンタルケアのスペシャリスト。

12:30-13:30

パネルディスカッション 2

「認知症に備え、超高齢社会の暮らしを豊かにするイノベーション」

●パネリスト



稲邑 拓馬氏 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 課長

1998年に東京大学法学部を卒業後、通商産業省(当時)に入省。主にエネルギー、通商、製造業などの分野での政策立案に従事し、2020年5月から経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長に着任。

直前は、資源エネルギー庁エネルギー制度改革推進総合調整官として、電気事業法・再生可能エネルギー特別措置法の改正を担当。また、外務省 OECD 日本政府代表部や財務省主計局といった他省庁への出向経験も有する。



筧 裕介氏 デザイナー・issue+design 代表

issue+design 代表、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科特任教授。認知症未来共創ハブ運営委員。東京大学大学院工学系研究科修了(工学博士)。2008年ソーシャルデザインプロジェクトissue+designを設立。以降、社会課題解決のための

デザイン領域の実践に取り組む。代表プロジェクトに「東日本大震災ボランティア支援・できますゼッケン」「住民みんなで未来を描く・高知県佐川町総合計画」「SDGs視点で地域づくり・SDGs de 地方創生」ほか。日本計画行政学会・学会奨励賞、グッドデザイ

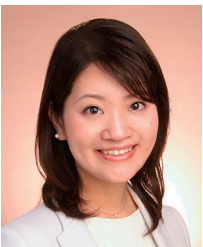
ン賞BEST100、カンヌライオンズ(仏)、D&AD(英)ほか受賞。著書に『認知症世界の歩き方』『持続可能な地域のつくり方』『ソーシャルデザイン実践ガイド』『人口減少×デザイン』ほか。



中村 早苗氏 京都府健康福祉部高齢者支援課

2002年京都府庁入庁、児童保健福祉課に配属。05年京都府立医科大学、08年農村振興課、11年計画推進課、13年内閣府男女共同参画局、15年男女共同参画課、18年から現職。

●モデレーター



吉村 英里氏 日本医療政策機構 シニアマネージャー

慶應義塾大学法学部政治学科を卒業後、日本アイ・ビー・エム戦略コンサルティング部門などを経て、国際ロータリー財団グローバル奨学生として渡米。カリフォルニア大学サンフランシスコ校修士課程でグローバルヘルスを専攻。大

学院卒業後、2016年より日本医療政策機構に参画。認知症に関する国内外の産官学民連携促進や世界認知症審議会(WDC: World Dementia Council)との調査研究などに携わる。認知症政策のほか、現在、こどもの健

康、がん個別化医療、医療者の働き方改革推進、HIV/AIDS、パンデミック下の移民の健康、非感染性疾患におけるグローバルな市民社会との連携促進プロジェクトなどをリードしている。

「当事者が参画する認知症研究開発の推進に向けて」

●パネリスト

**木村 展之氏** 日本医療研究開発機構 ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課 調査役

2004年 東京大学大学院 農学生命科学研究科 獣医学専攻博士課程 修了(獣医学博士)。同年 国立感染症研究所 筑波医学実験用霊長類センター 研究員。05年 部局独立化に伴い、医薬基盤研究所 霊長類医学研究センターと改称。12年 医薬基盤研究所

霊長類医学研究センター 主任研究員。13年 国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター アルツハイマー病研究部 病因遺伝子研究室 室長。20年 現所属機関へ出向、現在に至る。ヒトに近縁な高等霊長類であるカニクイザルをサロゲートモデルとして老化

に伴うアルツハイマー病の発症メカニズム解明を目的とする研究を展開し、エンドサイトーシスと呼ばれる小胞輸送系の機能障害がAβの細胞内蓄積を引き起こすことを発見した。昨年8月より現所属機関へ出向し、認知症研究開発事業の担当となる。

**岩坪 威氏** 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻教授(医学博士)、国立精神・神経医療研究センター 神経研究所長、日本認知症学会理事長

1984年 東京大学医学部卒業。86年 東京大学神経内科入局。89年 東京大学医学部脳研病理 助手。98年 東京大学大学院薬学系研究科・臨床薬学教室 教授。2007年 東京大学大学院医学系研究科・神経病理学分野 教授、J-ADNI主任研究者。20年 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長(兼務)、日本認知症学会代

表理事(兼職)、現在に至る。専門: 神経病理学(アルツハイマー病・パーキンソン病の分子病態)、アルツハイマー病治療薬開発に関する研究。ADの原因となるアミロイドβの形成機構を明らかにし、J-ADNI研究により画像診断・バイオマーカー指標などを確立。(主な受賞歴) MetLife Foundation 2008 Award for

Medical Research Alzheimer's Association Henry Wisniewski Lifetime Achievement Award 2010 2012 Potamkin Prize for Research in Pick's, Alzheimer's Disease and Related Diseases 第10回高峰記念第一三共賞

**鈴木 森夫氏** 認知症の人と家族の会 代表理事

愛知県大府市出身。1974年愛知県立大学社会福祉学科卒。愛知県および石川県内の病院、介護施設で、医療ソーシャルワーカー、特別養護老人ホーム施設長、介護支援専門員(ケアマネジャー)として勤務(2017年3月まで)。84年「家族の会」石川県支部

の設立に参加、以後事務局長、世話人として活動。15年「家族の会」本部常任理事、17年6月代表理事に就任し、現在に至る。日本認知症官民協議会実行委員、金城大学非常勤講師、精神保健福祉士。

●モデレーター

**滝 順一** 日本経済新聞社 編集局編集委員

1979年早稲田大学政治経済学部卒業。同年日本経済新聞社入社、編集局産業部(現企業報道部)に配属。81年同新潟支局。84年同科学技術部。88年同国際部。89年日本経済新聞社米州総局ワシントン支局。92年

日本経済新聞社編集局科学技術部。93年日本経済新聞社大阪本社経済部編集委員。96年日本経済新聞社東京本社科学技術部次長。2002年同科学技術部編集委員。04年同科学技術部長。06年兼編集局次長。07年

同科学技術部編集委員。09年論説委員を兼務。14年論説委員兼編集局経済解説部編集委員。16年8月末に日本経済新聞社を定年退社、同年9月から編集局編集委員(嘱託)。

「アフターコロナの認知症共生社会に向けて

～産官学民マルチステークホルダーの連携～」

●パネリスト

**佐藤 啓氏** 参議院議員

奈良市出身、2003年東京大学経済学部卒業、総務省入省。在職中、2度の地方自治体勤務(北海道、茨城県常陸太田市)、米国留学(カーネギーメロン大学行政大学院、南カルフォル

ニア大学法科大学院)や首相官邸(内閣総理大臣補佐官 秘書官)での勤務などを経験。16年参議院議員通常選挙(奈良選挙区)初当選。20年経済産業大臣政務官・内閣府大臣政務

官・復興大臣政務官。三方よし(個人の健康、社会保障制度の持続可能性、成長産業の育成)の「明るい社会保障改革」を推進する「明るい社会保障改革推進議員連盟」事務局長。



栗田 圭一氏 東京都健康長寿医療センター研究所・副所長

1984年山形大学医学部卒業。東北大学大学院医学系研究科精神神経学助教授、仙台市立病院神経科精神科部長兼認知症疾患医療センター科長を経て、2009年より東京都健康長寿医療センター研究所研究部長。13年より

同認知症疾患医療センター長、15年より同認知症支援推進センター長を兼務。20年より東京都健康長寿医療センター研究所副所長・認知症未来社会創造センター長に就任し、社会科学的な老年学研究とともに、病院と研究

所が一体となった総合的な認知症研究プロジェクトを稼働させている。専門は老年精神医学。精神保健指定医。日本認知症学会副理事長、日本老年精神医学会理事、日本認知症ケア学会理事、日本老年学会監事。



奥平 真砂子氏 笹川平和財団 人材開発部 特任調査役

富山県滑川市出身。1700グラムの低体重児で重度の黄疸により脳性まひの障害を負う。4歳から高校卒業まで施設で過ごす。何とか京都の大学に合格。大学卒業後、福祉機器販売会社に就職。24歳の時にアメリカ、バークレー自立生活センターで研修し、最終的に職業斡旋部門で3年余り勤務する。

帰国後は企業で10年ほど働いた後、障害者団体で5年ほど経験を積む。2001年から日本障害者リハビリテーション協会で、途上国の障害者の人材育成に携わる。15年3月から16年6月までJICA技術協力の専門家としてコロンビアでプロジェクトを展開。帰国後にはSDGsの啓発プロジェクトを運営。現

在は、笹川平和財団でダイバーシティ&インクルージョンプロジェクトに携わるとともに、日本財団の障害者支援プロジェクトにも関わっている。この6月に認知症だった父親を見送った。母親も認知症で、現在はグループホームで暮らしている。

●モデレーター



狩野 光伸氏 岡山大学副理事・大学院ヘルスシステム統合科学研究科教授 外務大臣次席科学技術顧問

1999年東京大学医学部卒業。聖路加国際病院で臨床医療を経験する。その後、東大院医学系研究科(老年病学・分子病理学)で学位を取得し、ナノ医療を開発する医工連携プロジェクトに携わり同大MD研究者育成プログラムの設立を担う。2012年から岡山大学教授、18年に自ら設立に携わった

文理統合型大学院の教授に任ぜられ、難治疾患治療法の開発を続けている。17年から同大副理事として国連SDGs達成の取り組みを推進し、日本政府SDGsアワードを受賞する。日本学術会議で10年以降若手アカデミーを設立し16年まで副代表を務め、20年に第二部会員に選出される。政府関連では

文部科学省、内閣府総合科学技術イノベーション会議、JSTなどでの役割に加え、19年から外務大臣次席科学技術顧問を外務省より委嘱され、臨床、研究、教育、そして公的活動に携わっている。

15:40-15:50

総まとめ あいさつ



黒川 清氏 日本医療政策機構 代表理事／WDC Vice chair

東京大学医学部卒。1969-84年在米、UCLA医学部内科教授、東京大学医学部内科教授、東海大学医学部長、日本学術会議会長(2003-06年)、内閣府総合科学技術会議議員(03-06年)、内閣特別顧問(06-08年)、WHOコミッショナー(05-09年)などを

歴任。国会による東京電力福島原発事故調査委員会委員長(11-12年)、グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)代表理事・会長(13-18年)、内閣官房健康・医療戦略室健康・医療戦略参与(13-19年)など。現在、世界認知症審議会(WDC:

World Dementia Council)委員・副議長、新型コロナウイルス対策の効果を検証する国のAIアドバイザー・ボードの委員長、政策研究大学院大学・東京大学名誉教授。東海大学特別名誉教授。